三重縣公報（毎週火曜及金曜ノ二回）明治三十五年三月二十六日第三種郵便物認可

三重縣公報

第六百九十六號

大正八年八月一日　金曜日

○告示

●三重縣告示第二百十五號

三重縣立神戸中學校及三重縣立木本中學校ノ位置ヲ左記ノ通定メ大正九年四月一日ヨリ開校ス

大正八年八月一日　三重縣知事　山脇春樹

三重縣立神戸中學校　河藝郡神戸町

三重縣立木本中學校　南牟婁郡木本町

●三重縣告示第二百十六號

三重縣立松阪商業學校ヲ左記ノ通設置シ大正九年四月一日ヨリ開校ス

大正八年八月一日　三重縣知事　山脇春樹

三重縣立松阪商業學校　飯南郡松阪町

●三重縣告示第二百十七號

明治三十九年三重縣告示第三百八十號及大正八年三重縣告示第四十二號神饌幣帛料供進指定神社中左ノ通變更ス

大正八年八月一日　三重縣知事　山脇春樹

鄉社相鹿上神社、村社相生神社鎮座地ヲ多氣郡相可町ト變更

●三重縣告示第二百十八號

明治三十九年勅令第九十六號第一條ニ依リ神饌幣帛料ヲ供進スルコトヲ得ヘキ神社ヲ左ノ通指定ス

大正八年八月一日　　三重縣知事　山脇春樹

鎮座地	社格	神社名
名賀郡矢持村大字奥鹿野	村社	八柱神社

○廳中事項

●敍任辭令

大正八年七月五日

三重縣産業組合主事補　塩谷　鍵重

月俸五拾五圓給與

大正八年七月二十二日

三重縣桑名郡書記　浦岡　久彦

給六級俸

三重縣桑名郡書記　浦岡　久彦

依願免本官

三重縣技手　塩谷　鍵重

佐賀縣ヘ出向ヲ命ス

大正八年七月二十四日

三重縣北牟婁郡技手　尾藤　信正

依願免本官

三重縣北牟婁郡水産技手　尾藤　信正

願ニ依リ本職ヲ免ス

大正八年七月二十五日

三重縣屬　村田　保

小學校教員檢定常任委員ヲ命ス

大正八年七月二十八日

三重縣志摩郡水産技手　齋藤　光雄

漁業監督吏員ヲ命ス

●轉任　大正八年六月二十三日三重縣水産試驗場技手旭章ハ石川縣水産試驗場技手八級俸ニ、大正八年七月七日三重縣水産試驗場技手竹田重雄ハ山口縣水産試驗場技手月俸六拾圓ニ、大正八年七月十二日三重縣技手三重縣農業技手村岡碩市ハ佐賀縣農業技手月俸參拾五圓ニ孰レモ轉任セリ

○彙報

●町村長助役認可

大正八年七月二十六日

志摩郡安乘村長　大野題五郎

志摩郡片田村長　山本　伊藏

志摩郡濱島村助役　澤村與之助

大正八年七月二十九日

安濃郡草生村助役　川本鄧太郎

●農事試驗場大正八年度夏作大暑當日（七月二十四日）ニ於ケル景況竝大正七年度冬作成績左ノ通

夏作景況

一、大暑　（△印ハ減ヲ示ス）

品種	大正八年草丈	大正八年莖數	大正八年草丈・莖數	大正八年平年草丈	大正八年平年莖數	比較增減草丈	比較增減莖數
早稻三種平均	一、九四	一一、九	一九、五	一八、八	△〇、〇一	△六、九	
中稻三種平均	一、八四	一三、五	一、八七	一四、五	△〇、〇三	△二、〇	
晚稻三種平均	一、六四	一六、六	一、四七	一七、八	、一七	△一、三	

苗代期中及移植後氣温稍低ク且ツ移植期遲延セル爲株張平年ニ比シ減少セルモ病害虫少ナク一般ニ無難ノ發育ヲ逐ケツヽアリ

附　陸稻ノ發育佳良ナリ

冬作景況

品種	大正七年收量	大正七年一升重量	平年收量	平年一升重量	比較增減收量	比較增減一升重量
大麥三種平均	二、七二八 石	三〇四	二、八〇一 石	三〇五	△〇、〇七三 石	△一
裸麥三種平均	二、一四六	三七八	二、三八四	三八二	△〇、二三八	△四
小麥三種平均	一、八三三	三六三	一、九三二	三五二	△〇、一〇九	五

春分以後成熟當時ノ氣候良好ナリシト雖播種後立春迄ノ障害ヲ恢復スル事能ハス平年ニ比シ大麥二分六厘稞麥一割一分小麥五分九厘ノ減收ヲ示セリ

●本縣林業技手梅原正衛ノ靜岡縣下ニ於ケル山葵栽培調査復命書別冊ノ通

大正八年八月一日印刷發行

三重縣公報（第三種郵便物認可）

三重縣

三重縣津市北町拾貳番屋敷
印刷兼販賣所　遵法社　松田武兵衛

三重縣公報第六百九十六號（大正八年八月一日）別冊

山葵栽培

山葵栽培

一、一般性狀

〔植物學上ノ地位及名稱〕

山葵ノ植物學上ニ於ケル地位ハ顯花部、被子類ノ双子葉門、離瓣區ナル十字科 Cruciferae ニ屬スル多年生草本ニシテ邦名ワサビ、羅典名 Eutroma wasabi 漢名山蒼柴ナリ其ノ山葵ト記スルハ一ニ邦俗ニ從フ

〔形態及品種〕

形態、葉ハ大体心臟形ナルモ或ハ淺ク或ハ深ク缺刻スルアリ緑邊ニハ微鋸齒ヲ有ス葉ノ大サ三四寸ヨリ五六寸ニ及ヒ色ハ淺緑ニシテ表面光澤ヲ有シ葉脉ハ裏面ニ突起シテ鮮明ナリ葉柄ノ長サ一尺ニ及フモノアリ花ハ春期ニ開キ蕚花瓣トモニ四片ナル白色ノ小花ヲ長キ莖梗ノ枝梢上ニ總狀花序ニ排列ス種實ハ長サ約一寸ノ莢内ニ收マル根莖ハ長サ五六寸直徑七八分ヲ普通トスルモ伊豆天城山產ノ如キハ長サ七八寸直徑一寸以上ニ及フモノ珍シカラス多節ニシテ粗大且ツ短キ鬚根ヲ有シ根皮淡青茶ノ肉ハ淺黃緑色之ヲ摺レハ粘狀ヲナシ清高ナル香氣ヲ發ス品質良好ナルモノハ苦味ナク甘味ヲ有シ辛辣香味共ニ强シ

品種、栽培セル山葵ノ品種ハ莖葉ノ色澤、形狀等ニヨリ數種ニ區別セラルヽモ大要次ノ二種ニ區別スルコトヲ得ヘシ

一ハ葉柄紫色ヲ帶フルコト多キヲ以テ紫莖ト稱シ駿河國安倍郡及遠江國榛原郡地方ニ栽培セラルヽモノ多ク此ノ種ニ屬ス

一ハ葉柄ノ色紫ヲ帶フルコト尠キヲ以テ之レヲ青莖ト稱シ伊豆國田方郡ノ天城山麓ニ栽培セラルモノ多ク此稱ニ屬ス

以上二大別セラルヽモ是レヲ尙詳細ニ分類スレハ次ノ如シ

山葵
- 大見種（葉柄ノ青色ナ帶フルモノ）
- 安倍種（葉柄ノ紫色ナ帶フルモノ）
  - 芽ツミ種
  - 芽高種
  - 長太種
  - 達磨種
  - 芽ツミ紫種
  - 芽高紫種
  - 中太種
  - 割レ莖種

右ノ品種中青莖ニアリテハ

一、達磨種、葉柄太クシテ綠色ヲ呈シ根莖稍短矮ナルモ能ク肥滿シテ重量多ク優等種ナリ

二、長太種、達磨種ニ似ルモ太サニ於テ稍劣リ長サニ於テ勝レルヲ特徵トス繁殖力ハ達磨種ヨリモ强ク是亦上等品ナリ

三、芽高種、葉莖强大ニシテ青ク根莖ニ附着セル芽（葉柄ノ脫落ト共ニ現ハル、モノ）高ク一見識別スルコトヲ得ヘシ

四、芽ツミ種、葉莖前者ヨリモ細クシテ數多ク生シ芽ハ極メテ密ニシテ高カラス青莖中最モ紫莖ニ近キモノナリ

紫莖ニアリテハ

一、割莖種、葉莖ハ極メテ淡キ紫色ヲ帶ヒ且ツ其ノ莖ノ內面ニ淺キ縱線アリ生長スルニ從ヒ此ノ線ニ添フテ裂開スルヲ特徵トス此種ハ佳良ニシテ稍々外形ハ青莖種ノ芽ツミ種ニ似タリ

二、中太紫種、根莖ノ中間肥大ニシテ生育狀態割莖種ニ似タリ唯葉莖ノ裂開セサルヲ區別點トス

三、芽ツミ紫種、葉莖ノ紫色他種ヨリモ濃ク根莖ハ芽位緻密ニシテ美麗ナル品種ナリ

四、芽高紫種、强健ナリ種類ニシテ芽頭凡テ高ク一見他種ト區別スルコトヲ得ヘシ

以上ノ外數種アルモ品質劣レルヲ以テ次第ニ淘汰セラレ消滅シツヽアリ而シテ何種ニ限ラス品質佳良ナルモノハ繁殖力弱ク然ラサルモノヽ强健ナルハ一般作物ト異ル所ナシ尙大和國添上郡月瀨村地方ノ畑地ノ梅樹下ニ栽培セラルヽ廣島種ト稱スルモノアルモ之レ安倍種ト大同小異ニシテ且ツ畑地ニ栽培スル所謂岡作リニ依レルモノニシテ香味共ニ澤作リニ劣レリ

二、鄕土及適地

（鄕土）

山葵ハ森林植物帶上ノ暖帶北部ヨリ溫帶ノ北部ニ至ル間ニ自生シ完全ナル栽培ハ氣溫零下八度半ヨリ最高三十六度迄ノ間ニ於テ行ハル而シテ其ノ良品ヲ產スルハ多ク深山幽谷ノ地殊ニ溫帶原生林ノ存在スル地方ナリトス伊豆國天城山、駿河國安倍川奧等ノ如キ比較的暖キ部分ニモ良品ヲ產出スルコト珍ラシカラサルモ之レ此等ノ地方タル人工ヲ主トシテ栽培スル結果多少山葵ノ素性ニ人爲的變化ヲ及ホシタルト其ノ栽培上最モ密接ノ關係ヲ有スル養水ト土性トノ山葵ニ適スルカタメニ外ナラサルモノト解釋セサルヘカラス

（適地）

山葵ハ性庇蔭地ヲ好ミ適當ノ蔭影ヲ有スル清淨ナル砂中ニ生育スルモノニシテ火山岩ノ砂礫ヨリナル土質ヲ最モ適當トシ秩父古生層、第三紀層等ニシテ砂礫多キ土地之レニ次ク附近ニ清澄ナル冷水ノ水源ト鬱蒼タル森林トヲ有シ北方ニ面シ少シク傾斜セル土地ヲ好適トス

三、栽培地ノ撰定

山葵栽培地ノ撰定ニ就テハ前項ニヨリテ判斷シ得ヘシト雖モ尙詳說スレハ山葵ハ他ノ作物ノ如ク土地ノ肥瘠ニ關係スルコト甚ダシカラス其ノ最モ重大ナル關係ヲ有スルハ養水ノ如何、附近及水源ニ森林ノ有無、土性及氣溫等ニシテ是レ等ノ事項ハ山葵栽培ノ成功ト失敗トノ分岐點ニシテ山葵栽培ノ生命トモ言フヘキ點ナレハ左ニ項ヲ分チテ詳記ス

〔氣中ノ溫度〕

氣溫ノ關係ニ就テハ未タ充分ナル研究ヲ爲シタルモノアルヲ聞カサレトモ概シテ溫暖ノ箇所ヨリモ寒冷ノ場所ニ多ク自生スルヲ見ル而シテ氣溫ノ如何ハ其ノ品質ニ影響ヲ及ホスカ如シ即チ同シ伊豆國ニアリテモ狩野及大見地方ノ比較的寒冷ノ地ニ產スルモノト稍ヤ暖キ下田附近ニ產スルモノトハ自ラ等差アルヲ免レス之レ獨リ氣候上ノ關係ノミニ因ルモノナラサルヘキモ一般ニ溫暖ノ地ヨリハ寒冷ノ地ニ於テ良品ヲ產ス然レトモ冬季高寒ニ過キ且ツ積雪多キ地方ニアリテハ山葵ノ生育ヲ害スルノミナラス凍結ノ爲葉莖ノ組織ヲ破壞セラレ枯死スルニ至ルコトアリ要スルニ冬間ハ比較的暖ク夏季冷涼ノ土地ヲ最モ適當トス

〔地況〕

地況トシテハ單ニ方向、傾斜ノ如キモノヽミニ止ラス山葵ヲ栽培セムトスル土地ノ附近及水源ノ狀況ニ充分考慮ヲ費スノ要アリ山葵ハ多ク山岳ノ北蔭ナル谷川ノ水際ニ自生スルモ其ノ本場タル伊豆、駿河地方其ノ他ニ於テ南向ノ部分ニモ亦良好ナル發育ヲナスモノアルカ故ニ一概ニ何レノ方向ヲ良シト限ルヲ得サルヘシ殊ニ實驗家中ニハ土地ノ方向等ハ何方ニテモ厭ハスト謂フモノアリ但シ栽培地カ平坦ナル場合ハ西方ニ於テ相當ノ森林ヲ存立セシメ陽光ノ直射ヲ避クルヲ以テ考フレハ西方又ハ南西ニ面スル箇所ヨリモ北ニ面スルヲ適當ト認ムルヲ至當トス

傾斜ニツキテハ五六度內外ノ緩斜地ヲ可トシ强傾斜、平坦地共ニ好マシカラス若シ平坦ナルトキハ栽培ノ勞費ヲ輕少ナラシメ得ヘシト雖モ良品ヲ收穫シ難キノミナラス往々流水ノ停滯ニ因リ腐敗病ヲ惹起スルコトアリ傾斜强キニ失スレハ流水ノ速度迅キニ過キ水流激シテ細砂ヲ流シ去ルノ弊アリ殊ニ傾斜ハ流水ノ停滯過速ノ因トナリ何レモ養水ノ溫度、清濁ニ關スルコト多大ナルヲ以テ決シテ之ヲ輕視スヘカラス

附近及水源ニ必要ナルハ先ツ樹林ノ存立ナリトス是唯ニ庇蔭ヲ得ムカ爲ノミニアラス之ヲ培養スル亦質ニ最モ深キ關係ヲ有スルニ因ル故ニ良好ノモノヲ得ムト欲セハ其ノ樹林下ヨリ湧出シ來ル冷水ノ絕エス栽培地內ニ注キ流ル、如キ場所ヲ撰定スルヲ要ス殊ニ山葵ト森林トハ重大ナル關係ヲ有シ森林ナクシテ山葵アルナク森林アリテ始メテ山葵生育シ得ヘキナリ今其ノ實例トシテハ百五六十年前ヨリ漸次發展シ山葵ノ本場ト目セラル、伊豆國天城山麓ノ山葵栽培地カ德川時代ニアリテハ天城山ヲ御林ト稱シ官用ノ木炭ニ少許ノ雜木ヲ伐採スルノ外杉、樅、欅等ノ用材木ハ保存セシヲ以テ全山鬱蒼トシテ大暑ノ候ト雖モ一步御林內ニ入レハ尙寒冷ヲ覺ユルノ狀況ナリシモ明治維新後軍艦材伐採ノ事アリ一時ニ林相ヲ變シ山中氣溫ノ昇騰セシ爲明治十九年頃ヨリ山葵ニ一種ノ病菌ヲ生シ傳播激甚ヲ極メ爾來十數年間ハ大打擊ヲ受ケ收穫皆無ノ個所少ナカラサリシガ其ノ後御料林トナリ新植事業着々進捗シ或ル部分ハ林相美觀ヲ程スルニ至リタルヲ以テ明治三十二三年頃ヨリ漸次恢復ノ徵ヲ呈シ現今ハ殆ント病菌ヲ認メサルニ至レリ故ニ附近ノ立木ヲ適度ニ伐採シテ更新ヲ計ルハ敢テ妨ケナキモ一擧濫伐ノ不幸ニ遭遇セハ直接間接ノ被害ヲ免ル、事能ハサルモノナリ

土性、山葵ハ火山岩ニ屬スル土地ヲ最適トシ水成岩中秩父古生層及第三紀層ニモ能ク佳良ノモノヲ產出セラレ得今山葵ノ產地トシテ名アル地方ノ地質ニ就キテ見ルニ伊豆天城山麓ノ栽培地

ハ大部分ハ凝灰岩、安山岩等ノ火山岩地ニ屬シ一部ハ第三紀層ニ屬ス駿河ノ安倍川奥ハ秩父古生層ニ屬シ島根縣三瓶山ハ火山岩ニ屬スル安山岩ヨリナルカ如シ要スルニ山葵ニ適スル土質ハ石灰質ニ富メル小石混リノ砂土ニシテ必スシモ肥沃ナルヲ要セス最モ好適ナル土性ハ火山灰等堆積シ地層ニ微小ナル空隙ヲ存シテ石灰分ニ富ミ天然ニ流水ヲ濾過シ之レヲ清淨ナラシムルカ如キ砂礫地トス

〔養水〕

養水ハ山葵栽培上最モ重要ナルモノニシテ他ノ事項ニ於テ理想的ノ地況ヲ有スル土地ト雖モ養水ノ不適當ナル場合ニハ良品ヲ得ルコト能ハサルノミナラス生育不良遂ニ消滅スルニ至ルヘシ依ツテ栽培地撰定ニ就テハ其ノ水質ニ充分ノ注意ヲ怠ルヘカラス之レ山葵ハ素ト冷ナル清水ニアラサレハ佳良ノ生育ヲ遂ケ得サルカ故ナリ

養水ニツキテ留意スヘキ點ハ其ノ冷温、清濁、水量、流水ノ速度及肥料的關係之レナリ水温ハ夏季冷ヤカニシテ冬季温カキヲ要ス即チ夏季ノ水温攝氏十度乃至十二度ヲ適良トシ十四度以上ハ病害ニ罹リ易ク生育モ亦不良ナリ其ノ清濁ニツキテハ常ニ水底ノ砂ヲ讀ミ得ル程ニ澄ミ之ヲ嘗ムルモ味ヲ感セサルヲ良トス之レ山葵ハ其ノ栽培地ニ泥土又ハ有機物ノ流入スルヲ忌ムコト甚タシキモノナルニヨル

水量ハ年中增減ノ變動尠ナキヲ要シ或時ハ溢レ或ルトキハ涸ルヽカ如キハ共ニ不適當ナルヲ免レス流水ノ速度ハ急激ナルモ緩漫ナルモ共ニ良シカラス然レトモ流速ノ如何ハ山葵田ノ地拵ニヨリテ改良スルコト容易ナルニヨリテ深キ介意ヲ要セサルヲ常トス

流水ノ肥料的關係ハ忽ニ付スヘカラサル事項ナリ其ノ養水及砂礫中ニ適當ノ養分含有セラルヽ場合ニ施肥スルコトナク良好ノ生育スルヲ見テ何レノ地ニモ施肥ノ要ナシト斷定スルノ早計ナ

ルハ施肥スルコトニ依リテ良結果ヲ得タル肥料試驗ノ成績ニ徵シテモ明カナリ然レトモ施肥スルコトハ余分ノ經費ヲ要スルニヨリ養水ニシテ適當ノ養分ヲ含有スルニ於テハ其ノ必要ヲ見ズ

先年天城山ニ於テ濫伐アリタルトキ數年間非常ナル良品ヲ產シ後漸次生育ノ度ヲ減シタルコトアリシモ之レ長ク山林中ニ保留セラレタル肥料分ノ森林濫伐ノ結果一時ニ流出シ養水ト共ニ山葵田ニ注キタルカ爲ナリ

要スルニ養水トシテ適當ナル要件ハ

一、水温ハ夏季冷カヱシテ冬間暖カナルモノ

二、有機物ノ含有量尠少ナルモノ

三、清澄ニシテ礫埃沈澱物等ナク降雨ノ混濁少キモノ

四、年中ノ湧出量大差ナキモノ

五、生育ニ要スル微量ノ營養分ヲ含ムコト

等ニシテ如何ニ優良ナル養水ト雖モ水源ヲ遠サカルニ從ヒテ漸次是レ等ノ條件ヲ欠クニ至ルヘシ天城山筏場入ニ於ケル養水ハ水源ヨリ約十町ヲ距ル下流位マテ其ノ効力ヲ有スルモ安倍川奥ニアリテハ僅ニ二丁ニシテ其ノ効力ヲ失フカ如シ故ニ栽培地ハ水源ニ接近スル程其ノ成績良好ナリ山葵田ハ稻作ト反對ニ水口ニ於ケルモノハ水下ニ於ケル部分ヨリモ生育良好ナルヲ見テモ明カナリ

四、栽培法

山葵ノ栽培ニハ始終養水ヲ注ク「澤田作リ」ト養水ヲ注カサル「岡作リ」トアリ「岡作リ」ヲナシタルモノハ「澤田作リ」ノモノニ比スレバ根莖小ニシテ多少苦味ヲ帶ヒ香氣、辛味共ニ劣ル從ツテ優良ナル山葵ノ產地トシテ名アル地方ハ何レモ澤田ニ栽培セラル依ツテ茲ニハ專ラ「澤田作リ」

ヲ記述シ最后ニ「岡作リ」ノ大畧ヲ記スルコトヽス而シテ「澤田作リ」ニモ伊豆式、駿河式等地方ニヨリ多少ノ相異アルモ就中最モ進歩シタルモノト認ムル伊豆式ヲ主トシテ記述セントス

〔開墾〕

溪間清澄ナル流水地ヲトシ先ツ雜草木、黑土及腐朽物ヲ除去シ石ト砂トヲノミ殘シ置キテ構成ノ準備ヲナス而シテ過大ナル岩石ハ破碎シテ各間隙ヲ設ケ石ト石ト順次ニ組ミ合セ以テ澤田ノ基礎ヲ作リ上ニ次第ニ小形ナル石及ばらすヲ敷キテ澤面ノ勾配約二三度内外ノ地盤ヲ作ル之ヲ疊石法ト云フ其ノ上ニ細カナル川砂ニ少許ノばらすヲ混シタルモノヲ凡ソ六寸ノ厚サニ散布シ之ヲ耕砂トス而シテ耕砂ハ以後更新スル毎ニ少量ツヽ追加スルヲ良トス場所ニヨリ川砂ヲ得難キ時ハ適宜山砂等ヲ用フルコトアルモ其ノ成績前者ニ及ハサルヲ常トス

地盤ノ傾斜ニヨリテばらす混入ノ程度ヲ異ニス即チ傾斜急ナレハばらすヲ多クシ緩ナレハ少ナクス是耕砂ノ流失ヲ防クカ爲ナリ又其土地ノ傾斜急ナル場合ハ澤田ヲ階段狀ニ作リ以テ澤田面ヲ適當ノ勾配タラシムルハ養水ノ活力ヲ增シ細砂ノ流失ヲ防クニ於テ極メテ有利ナルヲ以テ寧ロ適當ノ面積ニ分劃シテ次第ニ階段ヲ設ケ水ヲ落下セシム

養水ノ一旦砂中ニ浸入シ地下ヲ通過シテ下段ニ再ヒ流出スルモノハ山葵生育上最モ貴重ナル水ナレハ空シク地下ヲ流過セシメサルコトニ注意スヘシ但シ此ノ如キ開墾ハ何處ニ於テモ必要ナルユアラス即チ目的地ノ地盤カ自然ニ山葵澤田ノ地盤ニ適シ居ル場合ハ敢テ基礎工事及石疊法ヲ行フノ必要ヲ見サルナリ

駿河式ノ之レト異ル点ハ基礎工事トシテ最下部ニ厚サ一寸乃至二寸ノ粘土ヲ敷キ養水ノ漏失セザル樣ニスルコトニアリ

〔整地〕

開墾地ノ砂ヲ均シタル上之ニ水ヲ引キ入レ山葵澤用唐鍬ヲ用ヒテ先ツ表面ニ沈澱セル泥土有害物等ヲ洗ヒ去リ再ヒ深ク鍬ヲ入レテ砂礫ヲ攪拌洗滌シ雜物ヲ除去シツヽ澤田ヲ平ラカナラシム舊澤田ノ植付更新ノ場合モ同樣ニ唐鍬ヲ以テ攪拌シ汚物ヲ去ルト共ニ澤面ヲ膨軟ナラシム而シテ此ノ作業ハ必ス澤田ノ上流ヨリ始メテ下流ニ及ホサヽルヘカラス然ラサレハ一旦洗滌シタル部分ニ上流ノ泥土其ノ他ノ有害物流レ込ミテ洗滌ノ効ヲ失フニ至ルヘシ

〔保護其ノ他必要ナル設備〕

養水溝、俗ニて溝ト稱シ養水ノ流路トナルト共ニ澤面一樣ニ養水ヲ分布スル爲メニ必要ナル溝渠ニシテ分布スヘキ澤ニ接スル部分ハ石ヲ以テ粗ク壁ヲ作リ壁石ノ間隙ヨリ一樣ニ澤面ニ養水ヲ注流セシム其ノ深サハ五六寸巾ハ約一尺位トス

井堰及水門、河川ノ流水ヲ養水トシテ使用スル場合ニ必要ナル設備ニシテ普通用ヰノ井堰ト同樣ノ構造ヲナシ導カントスル養水路ト井堰トノ間ニ高サ巾共ニ約三尺乃至五尺ノ水門ヲ設ケ以テ年中養水ノ量ヲ加減シ一定ノ養水ヲ供給スルノ目的ニ供シ尙水門ニハ竹若クハ丸太材等ヲ以テ塵埃除ヲ作リ養水ト共ニ落葉其ノ他ノ汚物ノ流入ヲ防グヘシ

石垣、洪水防備ノ用ヲナスモノニシテ山葵澤田ハ多ク溪流ニ接近スルモノナレハ一朝洪水起ルトキハ溪流ニ接スル澤田ハ溢水ノ爲押流サレ多大ノ勞苦モ水泡ニ歸スルノ憂アレハ溪流ニ接スル栽培地ニハ必ス設ケ置カサルヘカラス而シテ石垣ハ洪水被害ノ程度ニヨリ一定シ難キモ普通六尺位ノ高サトシ巾ハ適宜トス

濾過裝置、之ハ流水ニ濁水ノ流レ込ムヲ防ク爲必要ナリ此ノ裝置ハ竹ト藁ヲ編ミテ之ヲ水路ニ充テ若クハ上部ニ粗石ヲ堆積シ以テ流水ヲ通過セシムレハ足ル

露防ケ、之ハ澤田ヲ楷段狀ニ區劃シタル場合ニ必要ナル設備ナリ即チ上段ノ澤田ノ尻水カ下段

ノ澤田ニ落下スルトキ其ノ飛沫散亂シ下段ニ栽培セラル、山葵ニ浴セカ、ルトキハ其ノ生育ヲ害スルコト尠ナカラサルカ故ニ板又ハ竹ノ柵若ハ石等ヲ以テ之レヲ防クヘシ

保護樹、之レハ陰影樹トモ言フヘキモノニシテ山葵栽培上大ニ注意ヲ要スルト共ニ又最モ議論アル点ナリトス或ル者ハ其ノ必要ヲ說キ又或ル者ハ不必要ヲ呼フ即チ駿河國安倍郡地方ニアリテハ澤田ノ周圍二三間ハ絕對ニ立木ヲ存在セシメス是レ此ノ地方ノ栽培法トシテ澤ノ表面ニがらト稱シ徑一寸乃至一寸五分位ノ礫ヲ列ヘ養水ノ外部ヨリ見エサル樣ニナセルト伊豆地方ノ如キ廣キ澤田ナク何レモ小畝歩宛溪間ニ点在スルトニ依リテ養水ノ溫マラス氣溫ノ昇騰スルコト少ナキカ爲ナリ之レニ反シテ伊豆地方ニアリテハ生育ノ点ヨリ見ルモ腐敗病豫防ノ点ニ見ルモ欠クヘカラサルモノトナセリ要スルニ山葵ハ性庇陰ヲ好ミ適當ナル庇陰地ニ良ク生育スルモノニシテ之レガ必要ハ言フマテモナキコトトス即チ森林中ノ溪間ナル小面積ノ澤田ニアリテハ附近ノ森林ヨリ適當ノ陰影ヲ投スレハ足レルモ日光ノ直射强キ西又ハ西南向ノ栽培地ニ於テハ是非共適宜陰影樹ヲ植栽セサルヘカラス而シテ其ノ樹種ハ夏季ハ充分陰影ヲ投シ冬季ハ陽光ノ射入ヲ妨ケス又根ノ伸長尠クシテ山葵ノ生育ヲ妨ケサルモノナルヲ要シ且ツ年中水分多キ砂礫中ニ生育スルノ必要上ハンノキ類ヲ以テ最モ適當トス尙ハンノキ類ハ其ノ落葉澤田中ニ入ルモ其ノ葉脉長ク腐朽セス掃除ニモ便ナリ而シテ陰影ハ木葉ノ間ヨリ少シク陽光ノ漏レ來ル程度即チ陰影七分ニ陽光三分位ノ割合ヲ適度トス

〔植付〕

整地終レハ小苗ノ植付ニ着手スヘシ其ノ方法及注意事項次ノ如シ

植付用子苗、山葵ハ初年ヨリ年々新ラシキ若芽ヲ分蘖スルモノニシテ一本ノ親株ヨリ一年生ノモノヨリハ五六分乃至一寸ノモノ五六本、二年生ノモノヨリハ一寸乃至二三寸ノモノ十數本ノ若芽ヲ生ス此ノ若芽ヲ叮嚀ニ掻キ取リ其ノ中良好ナルモノヲ選別シ大小ニ分チテ之レヲ植付用ノ子苗トナス而シテ子苗トシテハ二年生ノ親株ヨリ掻キ採リタル二寸位ノ大キサノモノヲ好適トス故ニ附近ニ良好ナル親株アル場合ハ之レヨリ採取スルコトヲ得ルモ若シ然ラサレハ其ノ產地ヨリ購入スルヲ要ス而シテ子苗ノ選擇及購入ニ際シテニ特ニ注意スヘキハ山葵栽培上最モ恐ルヘキ腐潤病ノ有無ナリトス即チ子苗ニシテ該病ニ侵サレ居ルカ如キモノハ絕對ニ使用スヘカラス又該病ノ發生セル地方ヨリ子苗ノ購入ヲ避クヘシ

子苗ノ採取期ハ秋ノ彼岸ヨリ春ノ彼岸マテノ間ヲ良トス又子苗採取ト植付ノ間ハ可成短キヲ良トス若シ子苗ノ採取後直ニ植付ケ能ハサル場合ハ澤田若シクハ砂多キ溪流ニ根莖部ヲ浸シ置クカ若シクハ乾燥セサル樣砂中ニ埋メ置キ時々適當ノ濕氣ヲ與ヘ且ツ空氣ノ流通ヲ良クシ置カハ一ケ月間位ハ貯藏シ得ヘシ

植付方法、子苗植付ノ距離ハ普通苗間八寸列間ヲ一尺內外トスル三角形植トナスヘシ而シテ列ハ養水ノ流ル、方向ト直角トナスベク其ノ植付位置ヲ定ムルニ標ヲ付セル繩ヲ使用スルモノアルモ伊豆地方ノ如ク竹製ノ（寸八一尺）ノ如キモノヲ用フルヲ便トス其ノ位置定マラハ豫メ選擇用意セル植ヱ石（置石又ハ力石トモ云フ）ト稱スル長サ五寸幅四寸高サ三寸位ノ底面平ニシテ据リヨキ小石ヲ其ノ位置ニ配置シ養水ヲ徐々ニ流下セシメ各植ヱ石每ニ二本宛（二本ノ苗ノ間隔ハ三寸位トス）下流ニ向ケ植ヱ石ノ下ニ挿入シ以テ苗ノ流失ヲ防クヘシ挿苗ニ際シ同一ノ澤田ニ植付クヘキ子苗ハ優劣ナキ一樣ノモノタルヲ要シ其ノ子苗ハ若葉ヲ摘ミ取リテ植付クヘク又子苗ノ表裏ヲ觀察シテ裏面ヲ上向キトセサルコト及根莖ト耕砂ト密接セシムヘク挿苗ノ深サハ根莖ト葉柄トノ境目僅カニ水面ニ出ツルヲ度トス而シテ養水ノ灌漑量ハ植付當時ハ成ルヘク少量トシ山葵ノ生長ト共ニ順次其ノ量ヲ增加スルコト等ニ留意スヘシ植付苗數ハ多少ノ差異アリ即チ

苗ノ大小ニヨリ粗密ノ差ヲ生シ又一石一本植トシテ苗間距離ヲ短縮スル等一定セサルモ普通前記ノ如クスルヲ好トス即チ苗間八寸列間一尺ノ三角形植トシ一石二本トスレハ一坪ニ對シ植エ石三十九苗數七十八本即チ一反歩ニ付二萬三千四百本ノ子苗ヲ要スヘク此ノ貫數約六十貫内外トス而シテ現今ノ子苗價ハ一本ニ付約七八厘ナリトス

尚植付方法ニ就テハ地方ニヨリ多少ノ差異アリ即チ駿河國安倍川奥ニアリテハ植エ石ヲ使用セス耕砂ノ表面ニがらト稱シテ徑一寸乃至一寸五分位ノ小石ヲ一ツ幷ヘトナシ流水ハ表面ニ現ハレサル樣ニナシ其ノ間ニ深ク直立ニ植付クルナリ何レヲ是トシ何レヲ非トスルカハ各々一得一失アリテ斷定シ難キモ伊豆式ヲ以テ是トスル方誤リナカラン即チ駿河式ニアリテハ比較的子苗ノ發芽數多キト親株ノ根莖眞直ナルトノ得点アルモ目的トスル親株ノ根莖ノ良好ナルモノヲ得難キニ反シ伊豆式ニアリテハ根莖ハ多尖灣曲スルモ其ノ肥大ニシテ且ツ品質良好ノモノヲ得ルノ得点アルカ故ナリ

植付ノ期節、山葵ハ殆ント終歲植栽シ得ヘシト雖モ大寒、大暑ハ成ルヘク之レヲ避クヘク適當ナルハ六、七、九月及十一月頃ヨリ二三月マテノ間トス

〔肥料〕

山葵モ亦普通作物ト同樣窒素、燐酸加里三成分ノ人工的供給ノ如何ニ依リテ其ノ生育ニ大ナル關係ヲ及ホスモノ、如ク就中窒素ノ必要ナルハ其ノ試驗成績ニ徵シテモ明カナリ然レトモ現今ニアリテハ「岡作リ」ヲナス地方ノ外澤田作リヲナス地方ニアリテハ人工的施肥ヲナスヲ聞カス之レ此ノ肥料分ハ總テ養水及耕砂中ヨリ自然供給セラル、ニヨルモ時ニ降雨久シク到ラサルトキハ山葵澤滿面黃色ヲ帶ヒ其ノ生育頗ル萎微トシテ一種ノ病害ニ侵サレタルカ如キ觀ヲ呈スルナリ是レ降雨ナキ爲森林中ノ落葉朽根等ノ腐敗ヨリ生スル「アンモニヤ」カ溪水中ニ溶解スルコト少ナキ爲山葵ノ生育ニ最モ必要トスル溪水中ノ窒素養分ノ欠乏ヨリ來ルモノニシテ降雨到ラハ忽チ恢復シテ全面濃綠色ヲ呈スルカ如キ如何ニ溪水中ノ窒素養分タル「アンモニヤ」カ山葵栽培上必要ナルカヲ知ルヘシ又或人嘗テ山葵澤田ニ炭灰ヲ施シタルコトアリシニ其ノ結果ハ非常ニ良好ナリシト聞ク之レ加里養分ノ必要ヲ示スモノナリ斯クノ如ク山葵ヲ栽培スルニ當リテモ施肥ニヨリテ其ノ收穫量ヲ增スト共ニ收穫期ヲモ短縮セシメ得ルコト明カナリ

山葵澤田ニ施ス肥料ハ試驗ノ結果硝酸態ヨリモ「アンモニヤ」態ヲ以テ施用スルノ優レルヲ知ルヲ得タリ故ニ「アンモニヤ」ニ富メル人糞尿ヲ施用スルヲ以テ最モ便ナリトス加里ハ濾灰ヲ以テ燐酸ハ溶解ノ緩慢ナル「トウマス」燐肥ヲ以テ施用スヘシ

而シテ施用方法ハ前記ノ肥料ヲ其ノ儘散布スルトキハ直ニ流失シテ其ノ効ナケレハ土ヲ混和シ煉リ固メテ一塊トナシ目ノ緻密ナル小形ノ俵又ハ叺ニ入レ繩ニテ縛リ之レヲ石油ノ空箱ノ如キ箱ニ詰メ山葵澤ノ水上ニ箱ノ上緣ヲ地面ト同シ高サニ埋メ多クノ穴ヲ有スル蓋ヲナシ重石ヲ置キテ流失セサル樣裝置スヘシ尚ホ練肥ヲ作ルニ混和スヘキ土ハ水田又ハ畑地ノ土ヲ掘リ取リ蓆上ニ擴ケテ好ク日光ニ曝シテ充分乾燥シ砂礫ヲ篩ヒ去リタル乾土ヲ用ヒ左ノ割合ニ混スヘシ

乾土	一斗五升
人糞	一斗
木灰	百匁
過燐酸石灰	五十匁

右ヲ調合スルニハ漆喰土間ニ於テ先ツ乾土、木灰、燐肥ヲ能ク手ニテ混和シ置キ後人糞ヲ徐々ニ加ヘ鍬ニテ練リ合セ前記ノ如ク施肥スヘシ

〔手入及保護〕

野廻リト稱シテ時々山葵澤田ノ見廻リヲナシ左ノ如キ事項ニ注意シ必要ニ應シテ適當ノ處置ヲ要ス

一、養水ノ加減、養水ハ常ニ一定ナラシムヘク又植付當時三ケ月間位ハ其ノ量ヲ尠クシ成長ト共ニ增加スルハ前記ノ通ナルモ又冬季ニ於テハ可成減水シ夏季ハ其ノ量ヲ增加スヘク又植付當初ハ苗ノ未タ鬚根ノ發生少キカ故ニ時々流水ノ爲流失スルカ又ハ植石、耕砂ノ異動スルカ如キコトアリカ、ルトキハ直ニ手直シスルト共ニ流水モ亦減スヘシ又砂利ノ散布モ必要ナリ而シテ養水ハ常ニ澤田面一樣ニ流下スルヲ要スルカ故ニ若シ一樣ニ流下セス流水ノ一方ニ偏スルカ如キコトアラハ是又直ニ手直ヲナスヘク又泥土、落葉枯枝等ノ山葵澤田内ニ流レ入ラサル樣注意スヘシ

二、雜草ノ除去、山葵澤田ニハ雜草ノ生育スルコト比較的尠キモ往々イタドリ、フキ、セリ等雜草ノ生スルモノナレハ之レ等ハ見逃スコトナク直ニ除去スヘク少ナクモ夏季二回位ノ除草ヲナスヘシ又澤田ノ畦畔ニ雜草繁茂スルトキハ山葵ノ生育ヲ害スルコト尠ナカラサルニヨリ數回之レカ刈リ取リヲナスヘシ俗ニ之レヲ寄セ刈リト稱ス

三、葉浚ヘ、秋冬ノ候ニ至レハ落葉澤面ニ堆積シテ養水ノ流下ヲ妨クルコト甚タシキヲ以テ數回之レカ浚ヒ取リヲ行フヘシ

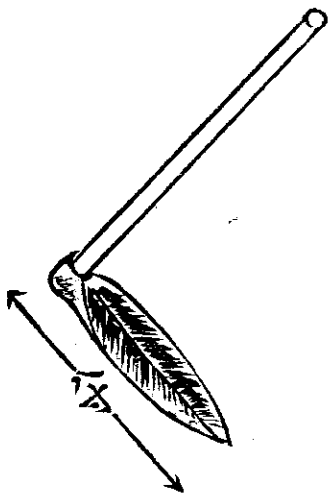
四、庇陰ノ度合、山葵澤田面ニ受クル日光ノ程度モ時々注意シ夏季ニアリテハ日光ノ余リ直射セス冬季ニアリテハ日光ニ不足ナキ樣セサルヘカラス若シ樹木ノ茂リ密ニ過クルカ如キコトアラハ適當ニ伐リスカスヘシ

五、補植、植付ケタル子苗ノ中ニハ養水ノタメ流シ去ラレ又ハ自然枯死スルコトアリ野廻リニ際シ先ツ其ノ有無ヲ詳細ニ調ヘ缺損セル所ニハ直ニ新ナル苗ヲ補植スヘク其ノ補植ニ要スル子苗ハ可成的大苗ヲ使用スヘシ然レトモ補植ハ當初植付六ケ月間位ノ間行ハレ六ケ月以上經過シタルトキハ仮令補植スルモ生育伴ハサレハ其ノ効ナシ而シテ一割内外ノ補植ヲ要スルヲ普通トス

六、摘薹法、山葵ハ春暖ノ候ニ至レハ花薹ヲ抽出スルモノニシテ移植ノ翌春ニ於テ特ニ多キモノトス之レカ爲ニ根莖中ノ貯藏養分ヲ消耗シ根莖ノ肥大ヲ妨クルモノナレハ之レヲ摘ミ取ルヲ良トス摘薹ヲナスニハ鋭利ナル鎌ヲ竿頭ニ附シテ遠クヨリ之レヲ刈リ取ルヲ便トス之レ山葵ノ葉繁茂スレハ澤田中ニ足ヲ蹈ミ入ルヽノ餘地ナキニ至ルモノナレハナリ

七、山葵栽培ニ要スル器具、山葵栽培ニハ鶴嘴、唐鍬、鋤簾、篩、箕、畚、掘取鉤等普通ノ器具ノ外圖ノ如キ一種特別ノ唐鍬ヲ用ヒ

山葵澤田唐鍬



八、諸害及其ノ豫防驅除、伊豆地方ニアリテ山葵ノ被害中最モ恐ル、モノハ洪水、腐爛病、モンシロテフノ幼虫、野猪ノ害ナリトス

洪水ノ害、即チ山葵栽培地ハ多ク河川ニ接スル所若シクハ溪流ニアル爲洪水ノ害ヲ被リ易ク一旦洪水ニ襲ハル、時ハ單ニ泥土其ノ他ノ汚物ノ爲埋沒セラル、ノミナラス苦辛ヲ重ネテ栽培シタル山葵ヲ流失シ多年栽培セル良澤田モ數時間ニシテ流失破壞セラル、ニ至リ非常ナル損害ヲ被ルコトアルニ依リ豫メ之レカ防備ヲナシ置クヲ要ス而シテ此ノ被害地修理等ニ際シテ泥土其ノ他ノ汚物ヲ流シ下流ノ澤田ニ流入スル時ハ其ノ澤田ノ山葵ハ生育ヲ害セラル、ノミナラス腐敗病ヲ發生シ遂ニハ枯死消滅スルニ至ルコトアレハ澤田ノ工事ニ當リテハ能々注意スヘシ之レ組合等ヲ設クルノ必要アル所以ナリ

腐爛病、本病ハ一種ノ病菌ノ寄生ニヨリテ發生スルモノニシテ始メ山葵ノ根莖ニ一黑点ヲ生シ漸次腐敗シ暫時ニシテ根莖全部ニ及ヒ非常ニ惡臭ヲ發シ遂ニ消滅ス而シテ其ノ傳播力タルヤ頗ル强烈ニシテ一旦上流ニ發生スルヤ忽チ下流ノモノニ傳染シ澤田全面ニ蔓延スルニ至ルヘシ明治十九年頃ヨリ伊豆地方ニ發生シ一時伊豆山葵ノ全滅ヲ疑ハレシカ幸ニシテ明治三十二年頃ヨリ漸ク病勢衰ヘ現今ニテハ殆ント本病ニ罹ルモノアルヲ聞カサルニ至レリ又近來駿河及遠江地方ノ山葵栽培地ニ本病發生シ栽培者ハ夫々其ノ處置ニ苦辛シ居レル有樣ナリ而シテ本病ハ如何ナル誘因ニヨリ發生スルヤ未タ明カナラサレトモ發生ノ模樣ニヨレハ附近及水源ノ森林濫伐サル、時栽培地ノ氣温昇騰シ山葵ノ生育衰ヘタル場合ハ本病ニ罹リ易キカ如シ今之レカ豫防驅除ノ方法ヲ列記スレハ

一、植付用子苗ハ病毒ナキ健全ナルモノヲ使用スルハ勿論本病ハ遺傳スルモノナレハ其ノ親株ノ健否ニモ注意スルコトヲ要ス即チ親株ニ黑色ノ小点又ハ黑色ノ輪環ノ見ユルハ病毒ニ

感染セルモノナルヲ以テ之ヲ除クコト

二、植付用子苗ハ該病發生地方ヨリ採收又ハ移入セサルコト

三、植付時期ハ可成最適時期ヲ選フコト

四、植付子苗ハ植付ニ先チテ消毒スルコト即チ木灰ノ十倍液中ニ約三分間位浸漬シ後ニ植付クルヲ良トス

五、泥土、落葉其ノ他ノ汚物ヲ澤田ニ流入セシメサルハ勿論常ニ陰影ノ度合ニ注意スルト又附近及水源ノ森林ヲ濫伐セサルコト

六、若シ一旦本病ニ侵サレタルトキハ直ニ罹病セルモノヲ除去燒却スヘシ決シテ之レヲ澤田ノ附近ニ放棄スルカ如キコトアルヘカラス尙木灰ノ散布ヲナスモ有効ナルカ如シ

モンシロテフノ幼虫ナル青虫ハ山葵ノ軟芽ヲ食シソノ成長ヲ害スルコト尠カラス故ニ是レカ驅除ニ注意シ又成虫ヲ捕殺スルコトニ勉ムヘシ

野猪、野猪ノ害モ亦甚タシキモノニシテ野猪ハ敢テ山葵ヲ食スルニアラサルモ澤田ニ棲息スル小動物及植物ノ根ヲ食セムカ爲山葵澤田ヲ掘リ起シ同時ニ山葵ヲ損傷スルモノニシテ其ノ害甚タシク一夜ニシテ數畝歩ヲ蹂躙シ去ルコトアリ故ニ之レカ捕殺及防禦ニ注意スヘシ

靜岡地方ニアリテハ以上ノ外差シタ害敵ナキモ他ノ地方ニテハ澤蟹ノ被害アルヲ聞ク之レ果シテ蟹カ山葵ヲ食スルカ又ハ山葵カ腐敗病ニ罹リ其ノ惡臭ニ誘ハレ蟹ノ集リ居ルモノナルカ末タ研究ノ餘地アリトス要スルニ此等以外ノ點ニツキテモ常ニ注意ヲ怠ルヘカラス

五、收穫及調製

山葵ハ植付後早キハ十二ケ月遲キハ三十ケ月ニシテ收穫シ得ラル是レ生育其ノ他ノ狀況ニヨリ差異ヲ生スルモノナレトモ普通一ケ年半乃至二ケ年ニシテ收穫期ニ達スルモノトス

〔收穫ノ季節〕

山葵ハ其ノ收穫ノ季節一定セス價格ノ高キ時ニ於テ收穫シ低廉ナル場合ハ之レヲ見合スカ如キ事ヲナシ得ルモ最モ適當ナルハ十月頃ヨリ翌年三月位迄トス

〔堀取方〕

採取ノ方法ハ先ツ鎌ヲ以テ葉柄ノ中間ヨリ刈リ去リ次ニ植ヱ石ヲ起シ葉柄ヲ手ニテ掴リ傷マサル樣注意シツヽ之レヲ下流ニ向ケ抽キ取ルナリ此ノ際穗先三四寸ノ鐵製ノ小釣ヲ用ヒ根部ノ周圍ヲ掻キ廻シツヽ引キ抽クモ便利ナリ而シテ採取シタル山葵ハ直ニ調製ヲナスヘシ

〔收穫量〕

天城山麓ニテ子苗植付後一年半ニ於ケル收穫量ハ一反歩ニ付百二十貫二ケ年後ニ於テ百三十貫乃至二百貫トス

普通一ケ年半ニシテ澤田面四乃至五坪ヨリ親株百五十本乃至二百本ヲ採取シ得ラレ其ノ重量三貫目乃至四貫目ニシテ之レヲ以テ一籠ノ分量トス而シテ一籠ノ價額平均八圓內外トス尙親株一本ニ對シ十乃至二十本ノ子苗ヲ得ルモノナリ山葵ノ價格ハ時季ト品質トニ依リテ著シク差異アルモノナレトモ普通根莖一貫目ニ付一圓乃至四圓、屑物及子苗一貫目ニ付二三十錢位ノ相場トス

〔調　製〕

堀リ取リタル山葵ハ根莖ト子苗トヲ離シ子苗中良好ナルモノハ植付用トシテ澤田面內ニ浸シ置キ其ノ他ハ漬物用ニ供シ得ヘク根莖即チ親山葵ハ其ノ大小ニ應シ庖丁又ハ利鎌ヲ以テ莖頭ヨリ凡ソ二寸乃至三寸位ノ間ニ於テ適宜葉柄ヲ切揃ヘ又毛根ヲ除去シ細砂其ノ他ヲ溪流ノ清水ニテ洗滌シ之ヲ籠ニ入レ日光直射セス風通シヨキ場所ヲ撰ミ蓆ニ一本並ヘニ擴ケ乾燥セシム其ノ乾燥ハ上部ノ濡水ノ乾キタルヲ適度トス即チ八時間乃至十二時間ニテ足ルヘク乾燥ニ過クル時ハ外觀ヲ損スルモノトス

〔荷造リ〕

荷造リ方ノ如何ハ品質ト量目トニ關スルコト大ナリ若シ粗雜ナルトキハ甚タシク量目ヲ減スルノミナラス山葵ヲ悉ク腐敗セシムルコトアリ故ニ濕氣ヲ防キ且ツ乾燥セサル程度ニ於テ空氣ノ流通ヲ良クスルコトニ留意スヘシ

近地送リノ場合ハ採取後可成速ニ調製ヲ終リ其ノ儘竹籠ニ容ルレハ足レリト雖モ若シ遠方ニ送ル場合ハ直經一尺二三寸深サ二尺內外ノ荒キ目ノ竹籠若クハ石油箱ノ如キモノニ詰メ込ミ荒蓆ニテ包ミテ荷造リヲナシテ叮嚀ニ輸送スルモノトス

〔貯　藏〕

山葵ヲ長ク貯藏セムトスルニハ乾燥セサル樣穴藏ニ貯藏スルカ若クハ井戸ノ中ニ釣リ下ケ水面ヨリ二三尺ノ上ニ靜止シ置クヲ良トス又塩氣ナキ砂粒中ニ容レ適當ノ濕氣ヲ與ヘ且ツ空氣ノ流通ニ注意スレハ三十日間位ハ貯藏スルコトヲ得尙極メテ暫時ノ間ナラハ流シ板等ノ如キ始終水分アル所ニ置クモ可ナリ然レトモ水質不良ナル場合ハ香味共ニ變化スルコトアルノミナラス往々腐敗スルコトアルヲ以テ注意スヘシ

六、收支計算

大正四年中ニ於ケル靜岡縣田方郡上大見村天城山麓ノ山葵澤田一反歩ニ對スル支收左ノ如シ

支　出

開墾費（但シ一坪ニ付人夫四人一人一日賃金五拾錢以下同シ）	金六百圓
苗代（但シ一坪ハ八十本植代金貳拾八錢）	金七拾貳圓

金拾五圓　植付費（但シ人夫三十人分賃金）
金七圓五拾錢　見廻費其他（但シ人夫十五人分賃金）
金貳圓五拾錢　葉葉浚渫費（但シ人夫五人分賃金）
金拾圓　採取費（但シ人夫二十人分賃金）
金四圓八拾錢　荷造用箱代其ノ他
金拾五圓　諸稅及諸掛リ
金參圓　器具費
金百壹圓貳拾五錢　開墾費苗代ニ對スル一ケ年半ノ利子
合計金八百參拾壹圓〇五錢

收入

金貳百四拾圓　開墾后一ケ年半採取山葵三十個（一個ハ正味三貫目乃至四貫目入一個ニ付八圓）代
差引金五百九拾壹圓〇五錢

ノ不足ヲ生スルモ以後ハ開墾費ヲ要セサルニヨリ爾後一ケ年半毎ニ採取スレハ八ケ年目ニ至リ創業費ヲ償却シテ純益金百八圓ヲ得ヘシ

右ハ壘石改良法ニシテ開墾ニ多額ノ費用ヲ要スルモ若シ舊式ニヨリ單ニ砂礫ヲ均ラシ構造スルトキハ一坪金壹圓以内ノ費用ニ止マルモ收穫ニ於テ減退スルヲ以テ現今ハ一般ニ此改良法ヲ實施ス

七、食料其ノ他ノ利用法

山葵ノ利用法ハ其ノ範圍狹ク重ニ上等ノ根莖ハ之ヲ山葵卸シトシ刺身、其ノ他ノ香味料トシ莖葉又ハ子苗及屑物等ハ浸物或ハ漬物トシテ使用ス又藥料トシテ多少之ヲ使用ス

一、香味料

（卸シ）大根卸シヲ少シク炙リ次ニ山葵ノ莖頭部ヨリ徐々ニ擦リ始ムヘシ若シ根先ヨリ擦リ始ムル時ハ風味ヲ損スヘク尙余リ粗ク卸ストキハ香味共ニ弱キヲ免レス故ニ可成微細ニ卸スヘシ而シテ卸シタル山葵ニ砂糖ヲ擦リ混セルトキハ香味ヲ增スモノナリ

（山葵水）山葵ノ根莖ヲ薄ク小口切トシ土瓶又ハ壘等ニ入レ熱湯ヲ注加シ香氣ノ拔ケサル樣密閉シ之レヲ冷シテ後切片ヲ出シ浸汁ヲ濾過シテ壘中ニ入レ置キテ使用ス

一、漬物

山葵ノ漬物トシテハ粕漬、味噌漬、醬油漬等アルモ最モ多ク行ハル、ハ粕漬ナリトス今靜岡縣下ニ於ケル粕漬ノ製法ヲ記サンニ山葵ノ屑物及子苗トシテ不適當ナル根芽ノ廢物ヲ利用シ葉莖ノ付着シタル儘一度溫湯ニ浸シ後取リ出シテ葉莖ハ三四分ニ根莖ハ細カニ短冊形ニ刻ミ葉莖六割根莖四割位ノ割合ニ混シ鹽ニテ揉ミ鹽汁ヲ絞リ捨テ是レニ味淋ヲ少シク混シタル酒粕ニ入レ能ク搔キ廻シ四斗樽等ニ詰メ置ク時ハ早キハ二時間位ニシテ山葵漬ト成ル靜岡地方ニアリテハ之ヲ小樽又ハ鑵詰トナシ十中ノ八九ハ東京靑物市場ニ其ノ他ハ横濱ニ輸送ス東京ヨリハ更ニ北海道、仙臺、新潟等ニ轉送スト云フ其ノ產額靜岡市ノミニテモ五六萬圓ニ達ス

因ニ靜岡縣下ニ於ケル山葵ノ產額年々約十八萬圓ニシテ內約拾萬圓ハ天城山麓ノ上大見村ニ於テ產ス同村ニ於テハ大正三年大見山葵業組合ヲ設立シ組合員百四十一人ニシテ全村戶數四百四十戶ニ對シ三分ノ一强ノ栽培者ヲ有シ其ノ栽培面積二十二町六反歩ヲ有ス

附　山葵ノ岡作リ法

奈良縣添上郡月瀨村地方ニ於ケル山葵ノ岡作リ法ノ大略ヲ記ス

山葵ヲ栽培スル畑地ハ適當ノ陰影ヲ有スル畑地即チ梅林內ノ畑等ヲ最モ適當トシ土質ハ砂土又

ハ砂質壤土ヲ良トス若シ適當ノ陰影地ヲ有セサルトキハ日覆ヲナスヲ要ス

種類ハ此ノ地方ニ於テ俗ニ廣嶋種ト稱スルモノヲ用ヒ親株ニ生セル根芽ヲ掻キ取リテ子苗トシテ移植ス

移植ノ期節ハ秋彼岸頃ヲ良トシ畑地ヲ能ク耕耘シ苗間距離五六寸ニ一本ツヽ植付ケ畦間ヲ一尺位トスル條植トナシ翌年ノ秋ニ至リ是レヲ他ノ畑地ニ移植シ尙其ノ翌年モ同樣移植シ置キ當初ノ植付後三年ニシテ收穫ス其ノ間年々一回夏季ニ於テ一反歩ニ對シ刈草約三百貫、菜種子〆粕八十貫乃至百貫目ヲ肥料トシテ施スヘク猶ホ多少ノ耕耘及除草ヲ要スレトモ夏季ニ於テハ却ツテ其ノ生育ヲ害スルモノナレハ之レヲ行ハサルヲ良トス又夏季甚タシク乾燥スルトキハ枯死スルニ至ルモノナレハ水ヲ注クヘシ而シテ一度水ヲ注キタルトキハ自然ニ降雨アル迄每日注水スルコトヲ要ス然ラサレハ却ツテ枯死ヲ招クモノナリ

此ノ地方ニ於ケル岡作リ一反歩ニ對スル收穫量ハ三年目ニ於テ普通七八十貫位ニシテ一貫目壹圓五拾錢乃至貳圓トス其ノ販路ハ大部分大阪、名古屋等ナリト此ノ岡作リニアリテハ生育ノ度及香味共ニ澤田作ニ劣ルハ免レサルモノナリ

大正八年八月一日印刷發行

三重縣廳

印刷兼販賣所　三重縣津市北町拾貳番屋敷　遵法社　松田武兵衛